

## 巻 頭 言

フジコー技報第17号によせて

### 創造と変革へのあくなき挑戦

JFE 条鋼株式会社  
社長

日野 光興  
Mitsuoki Hino



昭和 58 年に株式会社フジコーさんが、技術情報誌として、技報「創る」を発刊されて早 16 年で、今回が第 17 報ということになります。巻頭にあたり一言申し述べさせていただきます。

この技報「創る」も何冊か拝見させていただきましたが、相当水準の高い、多岐にわたる研究をされていることに感心するとともに、この技報が 17 年連続で発行し続けられること自体が、日頃の弛まぬ技術開発活動に裏付けられていることを示していると思います。さらに言えば、巻頭言の後に学術機関の先生方の投稿論文も数件掲載されていますが、先生方ともかなり深い技術交流を展開されておられると伺いました。実際に、技術開発の拠点となっている戸畑の「技術開発センター」は、平成 14 年に開設されましたが、ここには毎週のように、大学や企業の研究者の訪問があるようですから、常に最高の技術開発のため、日々切磋琢磨に努められていることは想像にかたくありません。

その学術機関の先生方と連携を保ちながら、さらに高度の技術開発を推進するために、フジコーさんは多くの公的補助金制度を活用されています。これは北九州市と（財団法人）北九州産業技術推進機構による「中小企業産学官連携研究開発事業」などであり、この開発事業から「省エネ型超音速溶射技術」や「TiO<sub>2</sub>皮膜利用の光触媒抗菌製品技術」などに見られる独創技術が生み出されているようです。

これらの事実は、北九州エコタウンに位置するフ

ジコーさんがまさに「産学官の深い連携」の下に、独創的技術開発を推進する体制をとっていることを如実に示し、このことで“技術開発を経営の中心に据える”という社風も窺い知ることができます。

さてフジコーさんと当社のお付き合いは、昭和 48 年に当社の前身である吾嬭製鋼所・仙台製造所（現在の JFE 条鋼 仙台製造所）が稼動した時に遡ります。吾嬭製鋼所はオートアーク（自動通電）のはしりであった炉底攪拌付き電気炉と、当時としては最大の大断面 BLCC で操業を開始したため、フジコーさん発足当時の基幹技術である「鑄型修理」をお願いすることはほとんどありませんでした。したがって吾嬭製鋼所時代では稼動当初から「設備機械修理」、「製缶作業」、並びに「ビレット疵取り作業」を全面的にフジコーさんに委託し、大いに協力いただき、現在に至っております。建設を含めた稼動当初からの連携であったこと、さらには鑄型修理で長年培われたグラインダー技術をビレット鑄片の疵取り作業に生かしてもらったことなどから、当社の保全や工場と息のあった迅速かつ効率的な修理、製缶、品質保証に至るまでの各作業は、職場からも事務所スタッフからも、絶大な信頼が寄せられてきました。当社の仙台製造所の担当部所からも、いろいろ聞いておりますので、下記にいくつか事例を紹介致します。

・特殊で高度な溶接技量が復旧時間を左右するような工場トラブルが発生したときのことですが、保全部がフジコーさんに修理依頼を出した時には、既

に溶接技量 No.1 のベテランを修理時間帯に合わせ勤務変更されていたので、復旧が早まった事例。

- ・複雑で非定常な修理の際は、保全課長をはじめ現場の最前線まで全員一丸となって修理方法を検討、実践する体制を速やかに構築した事例。

- ・構内専用車両の荷台を改造し、応急修理器具・工具類を積載させ、独自の“緊急修理車”を考案し、連絡があればこの“緊急修理車”で現場へ急行し、迅速処置を可能にした創意工夫事例。

- ・構内の整然とした機械整備工場での作業も定評があり、リーダー以下の単位作業チームは、時間内目標達成のために、一心不乱に作業に努められ、外部者が話しかける間を見つめるのに苦勞する実態事例。

これらは全てフジコーさんならではの事例ですが、常日頃から現場を知り尽くし、突発修理や依頼作業に関して最高の対応をするにはどうすればよいかを、普段から問題意識を持っておられるからできることだと思います。このような高い意識は、昨年仙台で稼動開始した環境対応型電気炉エコアークにも発揮されました。

つまりエコアーク建設・稼動準備期に、仙台に先行して稼動中であった当社姫路製造所のエコアーク炉の見学をしたり、エコアークに関する資料を取り寄せ勉強会を開催するなどして、自発的に準備を進められた事実です。結果として、新型炉にも拘わらず突発対応でも迅速な支援をしてもらい、垂直立上げに協力して頂きました。

これらの事例は、鑄型修理が主体事業であった時代に連続鑄造（CC）化の拡大スピードを予測し、溶接、溶射、そして CPC（連続鑄掛クラッド）などのロール開発を強化した技術転換のように、常に先を考えて対処するフジコーさんの社風を示すものであると、感じ入る次第です。

独創的な技術開発においても、製造現場に密着した修理作業においても、常に、創造と変革で高い技術と効率を追求されるフジコーさんには、当社としても、また業界としても、期待するところは大きく、広範囲に及びます。ますますの貴社ご発展を祈念致しまして、巻頭のご挨拶に代えさせていただきます。

### 【履歴書】

ひの みつおき  
日野 光興  
昭和22年9月4日生

### 【学 歴】

昭和46年 6月 東京大学法学部卒業

### 【略 歴】

昭和46年 7月 日本鋼管株式会社入社  
平成 7年 7月 同社 鉄鋼総括部長  
平成11年 6月 同社 取締役  
平成12年 4月 同社 執行役員常務  
平成13年 4月 同社 執行役員専務  
平成15年 4月 JFEスチール株式会社 専務執行役員  
平成17年 4月 JFE条鋼株式会社 代表取締役社長